東京オリンピックとガネフォ 「日本の役割を見据えながら」

ガネフォ本部役員 山 田 脩 (77歳) (慶応義塾大学出身)

リオから東京へ、五輪旗、パラリンピック旗は移ってきました。 世界で共通した課題も多くあります。地球温暖化、核、民族、宗教、宗派等数え切れぬ程ある中で、日本がやるべき事、やれば出来る事は多くあると思います。 世界唯一の被爆国だからやれる事、平和の為に何が出来るか今一度オリンピックの原点は何か考えたい。何故五輪のマークなのか? 東京でのオリンピックは2回目になります。

1964年のオリンピックは10月10日に晴天の中、開会式が行われました。 あの頃、世界は混沌としており、東西冷戦、中国はオリンピックに参加しておりません。オリンピックと政治は分離されておらず、前年の1963年には、インドネシア・スカルノ大統領、カンボジア・シアヌーク殿下、中国・毛沢東主席が中心となり、IOC(国際オリンピック委員会)に対抗。中南米、アフリカ等新興国をまとめて第1回新興国世界スポーツ大会を開催しました。

当然、親日家であるスカルノ大統領は、日本にも参加の要請をしました。 翌年東京オリンピックを控えている日本は参加しませんでしたが、世界平和と日本 とインドネシア友好の為に立ち上がったのが頭山立国氏でした。

ガネフォに出場すればJOC(日本オリンピック委員会)を除名され、オリンピックには出場出来ないと言う事で、なかなか選手が集まりませんでしたが、水球の選手たちは除名を覚悟で日本の為にという精神で参加してくれ、「正しく(まさしく)参加する事に意義がある」でした。

ガネフォが開催され柔道など金メダルを取れば国歌「君が代」そして「日の丸」が掲揚され感激したものです。新興国との競技を通じた交流、インドネシアを始め 各国の人達とも交流し、友情を深めました。特にインドネシアの高齢の方々が片言 の日本語を話し、インドネシアの独立に日本軍が果たした役割は大であると話され 一緒に「海ゆかば」を合唱したことは忘れもしません。世界平和と日本、インドネシア友好の為に参加し、成果を上げ、元気に帰国しました。 忘れてはならないのは、頭山立國氏 (日本選手団 団長) が参加の為に多くのご苦 労をされたと言う事であります。あれから 5 5 余年が過ぎ水球チームは当時を忘れず、あの精神を忘れずと言う事で集まり、語り合い旧交を暖めています。

1964年東京オリンピック、パラリンピックは大成功でした。 世界平和に対する日本人としての精神の積み重ねを考えるとガネフォに参加した 意義は大きく誇れるものであります。

2020年の東京オリンピック、パラリンピックの成功を祈念すると共に、世界 平和への日本の役割を果たそうではありませんか。

ガネフォ 開会式

